

ナンバリング	A①05	科目名	体育（実技）		担当教員	厚 東 芳 樹	
ディプロマポリシーとの関連性	①・②・③		担当形態	単独			
テキスト	適宜資料を配布する。			単位数 授業形態	1単位 実技	開講時期	後期
<p>講義概要</p> <p>■到達目標</p> <p>〔1〕 授業内で取り扱う運動教材に対して、幼児と一緒に安全に楽しめるための個人技術、声を掛け合うことや励まし合うことも含めた集団技術の習得ができること。とりわけ、「36の基本の動き」の存在を知り、それぞれの動きを習得するための動作の階層を説明できる。</p> <p>〔2〕 遊びを通して経験できる運動の意義や意味について理解し、先の〔1〕の内容と合わせて実践に適用できる。</p> <p>■授業の概要</p> <p>本授業では、生涯に渡ってスポーツに親しむための運動に関する基礎的・基本的な知識と技能を身につけます。また、「なぜ幼児期の子どもにとって運動は必要なのだろうか?」「どのような遊びが幼児期の子ども達の身体発達を促すのだろうか?」という2つの問いに対して実技を通して学んでいきます。さらに、グループ単位で「36の基本の動き」を取り入れた「運動遊び」を創作し、お互いに発表し合いながら学んでいきます。</p> <p>■授業計画</p> <p>第1回 「幼少期に養いたい36の動き」の存在を知ろう（オリエンテーション）</p> <p>第2回 身体で楽しさを表現しようーリズムをとることの大切さについてー</p> <p>第3回 身体で楽しさを表現しようーダルマさんが転んだ・あんたがたどこさを工夫した遊びー</p> <p>第4回 縄跳びの遊びをやってみようー大縄跳び、ダブルダッチというリズムが異なる縄遊びー</p> <p>第5回 ボールを運ぶ、投げる、ける遊びをやってみようー空間認識能力を高める遊びー</p> <p>第6回 ボールを操作しながら遊べるようになるー幼児の身体的特徴からみた投動作の在り方ー</p> <p>第7回 しっぽとりゲームをやってみようー1対1の対人局面で求められる駆け引きー</p> <p>第8回 やる気スイッチの入れ方を知って自分達で試してみよう ー幼児体育の中で園児は何でつまづくのかー</p> <p>第9回 走る技術について知ろうー0歳児から小学生にかけて必要な走るための運動感覚とはー</p> <p>第10回 幼児が反応する「造形物」と「音楽」を利用しよう ーマット遊びで重要な四足歩行とズリ這い動作ー</p> <p>第11回 グループでの実践に向けた準備</p> <p>第12回 グループ実践発表（1）グループ1による実践発表及びフィードバック</p> <p>第13回 グループ実践発表（2）グループ2による実践発表及びフィードバック</p> <p>第14回 グループ実践発表（3）グループ3による実践発表及びフィードバック</p> <p>第15回 園児と一緒にスポーツフェスティバルを楽しもうー幼稚園のフィールドに出て行こうー</p> <p>■準備学習</p> <ul style="list-style-type: none"> ・幼児体育や体育授業の中で発生した事故事例は調べること。 ・グループでの打ち合わせや話し合い、準備等を行うこと。 ・授業中に提示された映像等（例：YouTubeで視聴可能な動画など）を視聴し、ミニレポートを提出すること。 <p>■評価方法</p> <p>学習内容の理解度、技術技能の習得度合いおよびチームビルディングへの関わり具合などを総合して評価する。具体的には、以下の4つの評価観点より評価します。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・レポート課題ー30% ・授業毎のミニレポートー30% ・グループでの実践ー30% ・仲間と協力して、安全管理・危機管理に留意しながらの実技能力ー10% 							
参考文献	前橋明編著 池谷仁志 [ほか] 著 (2020) 幼児体育指導ガイド3. 大学教育出版. その他、講義の中でその都度、紹介します。		特記事項	【課題等へのフィードバック方法】 レポート課題提出後、模範解答を提示して解説を行います。			
卒業・免許状・資格との関連	幼稚園教諭免許状必修 保育士資格必修		幼保	第66条の6に定める科目 教科科目			
実務経験のある教員等による授業内容	・幼稚園での体育実技の指導経験を活かし、実際の課題やその解決への取り組み方法、また、その際の問題点などに触れ、より実践的な授業を行います。						